

施策評価シート【分野別施策】

施策名		関係部					
3-②	自然環境の保全を推進する	環境部、まちづくり政策部					
所管事業に関連する成果指標							
指標名	単位	実績値				5年度 目標値	推計値に よる評価
		改訂計画 策定時	2年度	3年度	4年度		
里山保全活動への 参加者数（年間）	人	468	62	126	274	470	未達成
環境学習への参加者 数（年間）	人	1,804	19	191	383	2,000	未達成

関連事業				
○環境活動促進事業○里山保全推進事業○生物多様性保全推進事業○西部丘陵地域資源まちづくり 支援事業				
決算額				
	2年度	3年度	4年度	5年度
事業費（千円）	7,146	5,465	5,626	
執行率（%）	83.76	97.26	95.88	

施策の推進に向けた主な取組の「成果」
<ul style="list-style-type: none"> ・里山保全協議会による下草刈りや樹木の伐採など、里山の整備・管理を行うとともに、神奈川県とともに市民活動団体を支援することで、里山の保全・再生に努めました。また、「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」をモデルとして、産官学民の協働で地域資源である里地里山を保全・再生するための検討を進め、協議会主体による農作業体験農園が開設されました。 ・環境ファンクラブ会員によるパネル展示、環境市民講座や活動発表会のほか、こども環境教室（海岸編）を開催し、市民の環境意識の向上を図りました。 ・新型コロナ感染対策を講じながら、ひらつか生物多様性推進協議会による相模川や金目川、海岸などの水域調査等を実施し、その結果を基に、本市の目指すべき生物多様性の行動計画として「平塚市生物多様性保全アクションプラン」を策定しました。

施策を推進する上での「主な課題（・）」と課題解決を図るための「取組方針（⇒）」

- ・貴重な地域の自然環境を持続的に保全するとともに、より地域に密着した保全活動とする必要があります。また、自然との触れ合いの機会を拡充する必要があります。
- ⇒活動内容やイベントに関する情報を発信することで、特に若年層の関心を誘発し、市民が主体となる里山保全活動の促進を図ります。また、西部地域では、自然環境や農業をテーマとした教育・交流・レクリエーション機能の場づくりなど、自然と調和した地域づくりを推進するため、協議会や学術機関との連携を継続し、地域資源を活かした構想づくりや具体的な取組について検討します。
- ・環境問題への関心を高め、意識の向上を図るとともに、情報発信や環境教育の在り方を検討する必要があります。
- ⇒事業の周知方法を継続的に見直すとともに、こども環境教室のプログラムや手法を社会情勢の変化に合わせて検討するなど、事業の内容を充実し、効果的な環境教育を推進します。
- ・生物の生息・生育空間の連続性や適切な配置に配慮する必要があります。
- ⇒令和4年度に策定した平塚市生物多様性保全アクションプランに基づき、市民団体や企業との協働による自然観察会やパネル展の開催など、生物多様性の保全活動を着実に推進します。